

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670400928
法人名	グループホームふきのとう株式会社
事業所名	グループホームふきのとう
訪問調査日	平成 20 年 1 月 15 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 5 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	670400928		
法人名	グループホームふきのとう株式会社		
事業所名	グループホームふきのとう		
所在地 (電話番号)	山形県米沢市塩井町塩野2057番地 (電 話) 0238-21-5616		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成20年1月15日	評価確定日	平成20年3月5日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 14.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り 2階建ての 階 ~ 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費10,000円、他実費	
敷 金	有(円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	78 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しおいクリニック、平井医院、足立歯科、舟山病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ここに来て良かった、みんなに会えて良かった、毎日笑えて良かった」という理念の実現のためにも、利用者それぞれの個性を大切にしていきたいと考えており、継続的な課題分析を通して見えてきた、「できること」「できなくなったこと」を十分踏まえつつ、利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるように取り組んでいます。
恵まれた自然を生かした収穫や旬の味(「大根」「白菜」「ねぎ」「栗」「柿」「フキ」など多数)を楽しむことができ、また、「みんなは家族」というホームの歌を職員が作詞・作曲するなど、管理者及び職員の創意工夫による活動も積極的に進められている、笑顔あふれる楽しいホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はありません。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や計画作成担当者のみならず、職員全員で評価についての話し合いを持ち、日頃のケアについての振り返りを行いながら自己評価に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域住民代表、家族、行政担当者等が参加して2~3ヶ月ごとに運営推進会議が開催されており、日頃の活動の報告やサービス向上についての話し合い等が行われている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時等に家族の意見を聞いた場合は、その日のうちに改善が図られるように取り組んでおり、サービス利用開始時には、重要事項説明書に基づいた苦情受付窓口等の説明も行われている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内にある神社や小学校の各行事、町内のお祭りに参加しており、開設当初から地域住民との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、利用者の個性を尊重した対応が行えるよう心がけており、地域との交流はみられるものの、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく地域密着型サービスとして、事業所独自の理念をつくりあげるまでには至っていない。	○	すでに実施している地域交流をさらに充実・向上させていく上でも、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく地域密着型サービスとしての理念について、職員間で検討してみる取り組みが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回開催しているホーム内研修会において、職員間で理念の取り組み状況を振り返り、個別支援の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内にある神社や小学校の各行事、町内の祭りに参加しており、開設当初から地域住民との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や計画作成担当者のみならず、職員全員で評価についての話し合いを持ち、日頃のケアについての振り返りを行いながら自己評価に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表、家族、行政担当者等が参加して2～3ヶ月ごとに運営推進会議が開催されており、日頃の活動の報告やサービス向上についての話し合い等が行われている。		

山形県 グループホームふきのとう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に、加算体制や事故報告書等の確認や相談に向いており、ホーム側だけの判断ではなく、行政担当者と共に質の向上ができるよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回のホーム便りの送付、面会時の報告等それぞれの家族が利用者の状況を把握できるようにしている。また、健康状態や担当職員の異動があった場合には、その都度電話で報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に家族の意見を聞いた場合は、その日のうちに改善が図られるように取り組んでおり、サービス利用開始時には、重要事項説明書に基づいた苦情受付窓口等の説明も行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員がユニット間を日常的に行き来しており、出勤時には利用者全員に朝・夕のあいさつをしたり、行事を2ユニット合同で行うなど、日頃から馴染みの関係が築けるようにしている。また、担当職員が異動になった場合でも利用者には混乱が生じないように、顔を出して話したり配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じて外部研修等に参加し、研修報告書の作成、研修内容の発表、研修資料の回覧がなされている。また、ホーム内の研修会も月1回開催されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者で構成している地区グループホームブロック会議に加入し、3ヶ月ごとに情報交換を行っている。また、居宅介護支援事業所職員の訪問もあり、ネットワークを広げる情報交換も行われている。		

山形県 グループホームふきのとう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が一緒になって、編み物、昔ながらの調理の味付け、畑仕事などを行い、利用者と職員が共に喜びを共有しながら生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所独自のシートなどを利用して本人の意向等を把握しており、また、意思の把握が困難な場合には、家族等からも以前の状況を聞き、その人らしい生活が送れるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題分析の結果を受け、本人や家族等の意見を反映させて介護計画を作成している。また、介護計画検討の際、医師が参加できなかった場合でも、往診の際に意見をもらって介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者全員について、介護計画の評価は3ヶ月ごとに行われており、また、心身の状況に変化があった場合には、その状況に合わせた見直しをしている。		

山形県 グループホームふきのとう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用開始時に、本人や家族等の希望を確かめ、希望に添った受診ができるようにしており、ホーム側の意向でかかりつけ医を決めるのではなく、家族等の希望を尊重しながら適切な医療が受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医の往診があった際に、助言を受けながら本人及び家族、職員で今後の方向性についての検討がされており、その結果を研修会やミーティングで話し合うことにより、全職員が方針を共有して対応できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	月1回開催する研修や日々の申し送りを利用して、個人情報についての理解を深めながら対応している。個人ごとのファイルは事務室内の書庫に保管され、課題分析の際に把握された一人ひとりの個性を尊重した言葉かけを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課等は決めておらず、その日の季節・気候、本人の心身の状況や希望に添って日々の活動を決定している。また、希望を聞くだけでなく、本人の生活リズムを考えながら日常生活が送れるよう支援している。		

山形県 グループホームふきのとう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施し、一人ひとりの好みを把握して食事を提供しており、課題分析で本人のできること、できないことを把握しながら、準備・盛り付け・後片付け等を職員と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望を当日の朝に確認し、希望に添えるように配慮しており、ホーム内での入浴だけでなく、ドライブがてら温泉にも出かけている。また、入浴の拒否がある場合も、それぞれの個性に配慮して関わる支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	課題分析の中で明らかになった、以前の生活状況や好みのもの等を活かして、編み物、畑仕事、調理、掃除などの得意なことを職員と共に利用者にも行ってもらい、それぞれに役割を持って楽しみながら生活が送れるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム全体で行うドライブや買い物等だけでなく、利用者の希望を個別に聞きながら、自宅への訪問や墓参りにも出かけており、より多く外出できるように取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	ホーム内部の研修で身体拘束についての知識を共有し、共通理解のもとで支援にあたっており、玄関のセンサー設置、出入りがわかる工夫としての風鈴など、さりげない対応ができるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画があり、避難訓練や通報訓練を年4回実施して日頃から災害の備えをしているが、近隣住民の協力依頼については各個人には依頼されているが、町内会や地元消防団等の組織や団体への協力依頼はまだ行われていない。	○	災害時の利用者安全確保のために、町内会、地元消防団、消防署、警察などへの協力依頼や働きかけについても検討され、地域からの協力がさらに得られるようにしておく取り組みも期待される。

山形県 グループホームふきのとう

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは利用者と職員で決めているが、事業所に協力してくれる栄養士のアドバイスや点検を受けている。また、利用者個々に食事形態を変えたり、嫌いなものの代替を提供する配慮も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が、それぞれ好みの居場所で過ごせるようにソファや椅子が置かれ、また、季節の装飾や花々が飾られて、季節感が感じられる共用空間づくりがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始の際、家族等にも説明して理解と協力を得ながら、本人の馴染みの物、テレビ、ソファ、ダンス、写真などを持ってきてもらい、できるだけ利用前の生活環境を変えないように配慮をしている。		